

■ 川崎市ヒアリング調査対象団体一覧

<川崎市>

No.	団体名
1	京町3丁目町内会
2	大師第三地区社会福祉協議会
3	小田地区民生委員児童委員協議会
4	大島中島地域包括支援センター
5	地域相談支援センターさらん
6	地域子育て支援センターでの
7	進め自由研究隊
8	社会福祉法人 青丘社
9	NPO 法人ファンズアスリートクラブ

No.1

団体名	京町3丁目町内会
主な活動内容	町内会・自治会活動
会員数	698名
活動範囲	町内会・小田地区町内会連合会
主な運営資金	町内会費、地区社協等からの助成金、町内会活動応援補助金
主な活動拠点	町内会館
団体の活動状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在の会員数は698人である。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症の影響で活動できない日が続いたが、老人いこいの家での麻雀の会や、老人会のグランドゴルフなど、最近では活動を再開している。</li> <li>・「小田まちづくり」という形で、小田地区町内会連合8町会の会長全員が参加し、15人ほどで活動している。</li> <li>・夏と冬に小田公園の野球場を開放して、その中で凧揚げ、だるま落とし、羽子板等のイベントを実施していたが、それだけの内容では市から資金が下りないということで、内容を見直した。</li> <li>・防災空地を利用した催しを実施する予定である。防災空地は3か所あるが、2か所使用する。残りの1か所は、地域の方の協力を得られず使用ができない状態である。</li> <li>・町内会で取り組んでいることの中には、防災関係である。</li> </ul>

No.2

団体名	大師第三地区社会福祉協議会
主な活動内容	高齢者支援に関する活動、子育て支援に関する活動、地域福祉に関する活動全般
会員数	47名
活動範囲	出来野、日ノ出、上田町、田町二・三丁目、江川、殿町一丁目、殿町二・三丁目、塩浜、塩浜三丁目
主な運営資金	市・区社協助成金、賛助会費、寄付金、募金
主な活動拠点	構成町内会館、殿町いこいの家
団体の活動状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年より2か月に一度、3拠点を巡回して、ほほえみ元気体操を実施している。来年度は頻度を高めて毎月実施する予定である。</li> <li>・殿町老人いこいの家で、高齢者向けの広報誌やチラシを発行し、9町内会に配布している。</li> <li>・老人いこいの家の年末掃除を行っている。</li> <li>・殿町子ども文化センターのフェスティバルに民児協やPTAに交じて手伝いをしたが、今後も参加協力して行きたいと考えている。</li> <li>・ほほえみ元気体操の会を行っている。体操の後に住民交流会を設け</li> </ul>

	<p>て区社協や区役所職員と交流する機会を設けている。広範囲に周知を高めるため宣伝用ののぼりを作成しPRを行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ふれあい会食会でふりこめ詐欺の注意喚起や口腔内体操も行っている。</li> <li>・情報交換のために年に一度、病院と会合を開いている。</li> </ul>
同行された委員の感想	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大師地区に住んでいるが、地区社会福祉協議会と関わることがあまりなく、町内会に入っているもお金を払うだけのような生活をしてきた。今回、児玉委員からいろいろとお話を聞き、たくさんのことを教えていただいた。</li> <li>・大師地区は広くて横長なので町内会同士のつながりがなかなか難しいという話や、実際に住んでいてもどこに何があるか意外と知らないという話などを聞き、大変勉強になった。</li> </ul>

No. 3

団体名	小田地区民生委員児童委員協議会
主な活動内容	地域住民の福祉に関する相談・支援及び地域福祉の推進
会員数	39名（地区担当民生委員児童委員37名と主任児童委員2名）
活動範囲	川崎区小田地区、浅田地区
主な運営資金	会費・補助金・委託金
主な活動拠点	小田56町内会館（小田小学校特別活動室）・小田中央町内会館
団体の活動状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月の小田地区民児協定例会の開催 毎月第2火曜日の午後1時から地区の中心にある小田小学校特別活動室（現在はコロナ禍のため小田56町内会館で開催）を利用し定例会を開催し、田島支所担当職員及び関係機関（地域包括支援センター・区社会福祉協議会等）との情報交換を行い、民生委員による会議、研修会の報告、各部会報告（児童福祉部会・高齢者福祉部会・障害者福祉部会・主任児童委員・子育てサロン担当）や、民生委員の日常活動に関する相談、支援の対応についての意見交換を行っている。</li> <li>・子育てサロンの開催 毎月、第3火曜日の午前10時から11時30分まで、地区の中心にある、小田中央町内会館で開催。スタッフは39名の民生委員を3班に分け、毎回民生委員10名程度で運営している。 主任児童委員を中心に運営しているが、民生委員には、現役の看護師、元保育士等児童福祉に精通した民生委員もおり、その知識と経験を生かした活動をしている。</li> <li>・地域保育園、小中学校との交流（一部休止中） 地域の中学校との地域教育会議には担当地区の委員が参加し先生、生徒及び地域の町内会長、PTA役員も参加し、生徒の学校での様子、地域での様子などの情報交換を行い交流に努めている。</li> <li>・地域の小学校主催の「ふれあい広場」に民生委員が参加し、コマ回しやけん玉、お手玉遊びコーナーで昔遊びを伝承し交流を図っている。 又、小学校1年生を対象にした「昔遊び伝承」授業に協力している。</li> <li>・児童福祉部会活動（自主研修会自主事業） 田島支援学校での施設研修会 夏休み期間中の近隣大規模公園を中心とした夜間パロロールの実施 近隣保育園世代間交流事業の参加 講演会の開催等</li> <li>・高齢者福祉部会（自主研修会の開催） 介護サービス事業者との意見交換会 地域包括支援センターとの意見交換会等</li> <li>・障害者福祉部会（自主研修会の開催） 地域「グループホーム東小田で」の研修会</li> </ul>

	<p>田島支所担当職員による「障害者サービスについて」研修会の開催 南部療育センターでの研修会等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>行政機関、関係機関への協力 一人暮らし高齢者等の見守り活動 日本赤十字募金、赤い羽根共同募金への協力 こんにちは赤ちゃん協力員としての活動協力</li> <li>地域との連携 当地区は住宅密集地ではあるが、商店街やスーパーも多く高齢者にとっては比較的安心して生活できる地域で下町的な情緒があり。委員も町内会の役員として地域活動している方や、ボランティアとして活動している方もおり、高齢者の安否の確認情報が比較的入手しやすい地域です。また、歴代各町内会長は民生委員経験者が多く、民生委員の役割を理解され、30年程前から民生委員に欠員が生じたことは無く、町内会との連携は大変良好。</li> </ul>
同行された委員の感想	<ul style="list-style-type: none"> <li>去年のこの時期に何をやっていたか、そして、コロナ禍の前はどうしていたかということ把握した上でないと、取組を進められないところがある。こうした中で、コロナ禍の前のレベルに戻していくのは大変だということ、ヒアリングの中で感じた。</li> </ul>

No. 4

団体名	大島中島地域包括支援センター
主な活動内容	介護予防ケアマネジメント、高齢者の総合相談、高齢の権利擁護、高齢者の包括的・継続的ケアマネジメント
会員数	5名（保健師、社会福祉士、主任ケアマネジャー、地域支援強化要員、看護師）
活動範囲	大島、大島上町、中島、富士見2丁目
主な運営資金	川崎市からの委託費
主な活動拠点	大島中島地域包括支援センター
団体の活動状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の高齢者、またはそのご家族の公的な相談窓口である。相談料金はかからず、相談方法は電話や直接訪問、また事務所にお越しいただく形で対応している。</li> <li>相談の内訳は、大部分が介護相談で、介護保険の申請や介護保険の認定を受けて、介護サービスを使うための手続きに関する相談が一番多い。1,900件のうちの1,300件が、介護に関する相談である。2番目に多い相談は、医療相談。3番目に多い相談は、生活相談。4番目に多い相談は、権利擁護関係である。</li> <li>地域支援事業として、町会や老人会の活動の支援として、出前講座をしたり、地域包括センターの紹介をさせていただいたりしている。その他、介護サービス事業所の支援も行っている。</li> <li>介護予防支援事業は介護保険の事業で、実際に包括支援センターでも事業対象者、要支援1、2の認定を受けている方のケアプランの作成を行い、請求業務も並行して行っている。これは介護保険の事業なので、包括支援センターとは別で行っている。</li> <li>大島いこいの家での「体操クラブ」を週に1回、火曜日の午後定期的に1時間程度の体操を行っている。コロナによる大島いこいの家広間での人数制限のため、現在は2グループを3グループに分けて実施している。</li> <li>地域ケア圏域会議も、縮小して昨年から再開した。地域の民生委員の代表の方が1名ずつということで、人数を絞る形で実施した。</li> <li>地域支援強化要員は、地域活動の支援をメインとしている職員であり、老人会等に参加したり、大島の市営住宅の集会所での体操に参加して協力している。</li> </ul>
同行された委員の感想	<ul style="list-style-type: none"> <li>住民の地域活動と専門機関との関わり方や連携のあり方を考える機会になった。専門機関である地域包括支援センターが対象地域をど</li> </ul>

	<p>のように見ているのかについて意見交換できたことは、今後の大きな財産になると思う。公的機関と住民の間の敷居を下げることで、そして、その意味を地域で共有し、確かめ合うことを進めていけばよいと考えている。引き続き、どういう形で協力・協働できるのかについて、継続的な情報交換や意見交換ができればよいと思った。</p>
--	---

No. 5

団体名	地域相談支援センターさらん
主な活動内容	障害者の総合相談、障害者の権利擁護、障害者の包括的・継続的ケアマネジメント
会員数	3名
活動範囲	浅野町、池上町、浮島町、江川、追分町、扇島、扇町、鋼管通、小島町、桜本、塩浜、昭和、田町、大師河原、大師町、大師本町、田島町、千鳥町、出来野、殿町、中瀬、浜町、東扇島、東門前、日ノ出、水江町、南渡田町、夜光
主な運営資金	川崎市からの委託費
主な活動拠点	地域相談支援センターさらん
団体の活動状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当センターは、川崎区の4つ目の相談支援センターである。</li> <li>・障害者サービスの中の相談部門ということになっているが、川崎市単独事業で、国の事業からは少し距離を置いている。コミュニティの中で障害手帳のあるなしに関わらず、生活の不都合が生じた方々に来てもらって話を聞き、生活が落ち着くまでの間つながっていくというコンセプトの川崎市独自の相談機関である。</li> <li>・現在約100人が登録をしており、身体障害、知的障害、精神障害、発達障害と大きく4種の障害に対応している。加えて貧困の方、職業的な安定が得られていない障害のある可能性のある方たちの相談にも対応している。</li> <li>・障害者手帳の有無に関わらないワンストップの相談、問題が解決するまでの伴走といった点が一次相談機関の役目であると考えている。</li> <li>・ケースワーク、グループワーク、ソーシャルワークと、相談事業は3つのレベルを持っている。</li> <li>・一人暮らしの進め方、親からの自立に向かうためのグループホームの活用、料理の作り方など生活課題で学習するテーマは数多くあるので、障害者の方々とここで一緒に勉強するような活動を考えている。</li> <li>・来年は中軽度の人たちの仲間づくりとして成人学級、グループワークのようなものを発展させてみたいと思っている。</li> </ul>

No. 6

団体名	地域子育て支援センターできの
主な活動内容	親子のふれあい遊びの場の提供、子育てに関する悩みなどの相談、地域の子育てに関する情報の提供、子育てに関する講座の開催
会員数	3名
活動範囲	川崎区内中心に川崎市全域
主な運営資金	委託料
主な活動拠点	出来野ルーテル保育園
団体の活動状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・10年ほど活動を行っている。</li> <li>・利用者はこの支援センターができるまで、遠くに通っていた。利用者は多いのでこの地域に必要とされていたのだと思う。</li> <li>・初めて来た人には登録してもらっている。一度登録したら小学校に上がるまで利用できる。</li> <li>・ワンフロアの為食事をするスペースがないので、昼食は家で食べ</li> </ul>

	<p>るということで、12時から13時は閉所している。多い時は10組～15組以上来ている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・職員は3名である。その中で保育士資格をもっているのは1名だけである。8年前に子育てボランティア団体「星空の鈴」結成し、できの子育て支援センターを活動場所としている。</li> <li>・大阪、福岡、沖縄など様々な場所から転居してきた利用者が多い。カンボジアや韓国、中国など外国籍の子や、障害のある乳幼児も利用している。発達が気になる子の療育のために利用される場合もある。</li> <li>・緊急事態宣言以降は、検温や手指消毒、マスク着用などのルールを守ることを条件に制限なしで利用してもらっている。</li> </ul>
同行された委員の感想	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設ができて10年ということで、10年の歴史が確実に積み重ねられている様子が印象的だった。その10年の間に周辺に建設された大型マンションの母親と子ども達に対して、子育ての不安に対する相談などに丁寧に応えている様子が伝わってきた。ただ、10年を過ぎて、地元の町内会や民生委員などの住民組織とのつながりが個人的なつながりのレベルにあるのはもったいないと思った。個人のつながりである「線」を「面」にすることを進めていかないと、人が変わる度に振り出しに戻ってしまう。また、子育て支援センターに集うことのない社会的孤立者や潜在孤立者へのアプローチは、引き続き課題として残っている印象であった。この場で組織された子育て支援グループ「星空の鈴」やセンターの利用者が、「あの人、気になるけど」という発見をする隣人となるために、地域学習や情報交換、支援機関とのつながりづくりを進めることが、今後の発展的な課題であると感じた。</li> <li>・地元の町内会との連携がもう少し深まってくると、人材の面も含めてより広範な活動に結びつくのではないかと感じた。これは青丘社も同じだが、もっと町内会を利用してもらえればよいという感想を持った。</li> <li>・地域子育て支援センターが地域の親子にとって非常に大事な役割を担っていて、とても必要性がある場所だと感じた。先ほど「星空の鈴」という保護者の自発的なグループについて話があったが、「自分と子どもにとって大事な場所だから力になりたい」、「困っている保護者の方にいろいろ伝えていきたい」という自発的な動きがあることが非常に素晴らしいと思うし、保育園もそれだけの役割を担える場所でありたいと思った。父母の会などこちらからお願いしてやってもらうことももちろん必要だが、保護者の方から力になりたいと思ってもらえるような保育園づくりをしていきたいと感じた。</li> </ul>

No. 7

団体名	進め自由研究隊
主な活動内容	市民自主企画事業
会員数	10名
活動課題	自由研究の対策として体験学習の実施と多様な交流機会をつくる
主な運営資金	事業実施委託料
主な活動拠点	教育文化会館
団体の活動状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動年数は4年である。</li> <li>・市民自主企画事業の活動として、小学生、県立川崎高校のボランティア高校生、大学生、講師が一堂に集まり小学校の自由研究の手伝いをしながら交流を深める場づくりという企画になる。</li> <li>・活動のきっかけは県立川崎高校に在籍中にボランティア部として夏休みの自由研究を手伝うイベントに参加したこと。</li> <li>・当時のボランティア部の部員数で団体登録しているが、実際は5人</li> </ul>

	<p>を中心に活動している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア部の活動の一環だったが、卒業後も定期的に会う機会を作るために継続して現在に至っている。</li> <li>・4月より1か月に1~2回、定期的に会合を開き、夏休み前までに活動予定を固める。</li> <li>・活動スケジュールとしては、前年度に企画を提案会でプレゼンし、実施する。実施終了後に総括する。その後は次年度へ向けた活動提案の企画出しと今年度の実施報告発表のための模造紙づくりとして定期的集まる。</li> <li>・活動の感想としては、夏休みの自由研究は面倒と思われがちだが、子どもたちの楽しそうな表情を見てうれしく感じる。作品が完成した子どもたちの笑顔に接することが最もうれしく、楽しそうな講師の姿を見て、続けて行きたいと思う要因になっている。同世代交流と異世代交流が体験できる。</li> </ul>
--	---

No.8

団体名	社会福祉法人 青丘社
主な活動内容	保育事業、児童館（桜本こども文化センター）の運営、ふれあい館（生涯学習事業）、障害者生活支援（グループホーム、相談支援、居宅介護、放課後等デイサービス、中・高生タイムケア事業、地域活動支援センター、日中一時支援）、高齢者生活支援（居宅支援、訪問介護、通所介護）、社会貢献事業、多文化支援（翻訳通訳バンク、学習支援、交流、相談、ふれあい高齢者交流事業・相談事業）、貧困対策事業（学習支援、市立川崎定時制高校居場所作り、子ども食堂）
会員数	170名（非常勤含む）
活動課題	川崎区周辺
主な運営資金	委託費、指定管理費、介護保険、障害者総合支援法の保険料収入
主な活動拠点	ふれあい館、桜木保育園、生活サポートネットワークほっとライン
団体の活動状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・桜本保育園、川崎市ふれあい館、生活サポートネットワークほっとラインを中心に、障害者に関してはデイサービス・グループホーム・地域活動センターなどの障害者サポート事業、高齢者に対しては日本人以外にもニューカマーを含む地域包括支援事業、幼児に関しては認可保育園と小規模保育事業、生涯学習事業の部では、市の多文化交流施設である川崎市ふれあい館の運営の他、さくら小学校・東大島小学校・大島小学校わくわくプラザやこども文化センターの運営、その他にも学校連携事業と学習サポート事業も実施している。</li> <li>・福祉、教育、介護に関するすべての事業所が敷地内の半径1キロ以内に集約されている。</li> <li>・桜本保育園では多文化共生保育を実践している。</li> <li>・川崎市ふれあい館は1988年に川崎市ふれあい館条例に基づいて設置され、1988年から2005年までは委託事業、2006年からは指定管理制度に移行され、公募によって、川崎市より運営を委託されている。</li> <li>・ふれあい館内には、サークル活動などに利用できる多目的ホールの他に学習等を行う会議室を保有し、ふれあい民族文化講師派遣事業、学習サポート事業、川崎区こども支援機関通訳翻訳事業などの多文化交流、また、多文化共生を目的とした外国人労働者家族を支援する事業も行っている。</li> <li>・学習サポートでは、生活保護家庭児童の居場所づくり、ひとり親家庭への学習支援、外国ルーツ青少年の多文化フリースクール、経済困窮する高校生や外国ルーツ高校生の日本語支援等近隣高校との連携授業も行っている。</li> <li>・生活サポートネットワークでは、高齢者介護保険事業・障害者自立支援事業、障害児のための日中一時支援事業、地域相談支援センター委託事業、地域活動支援センター事業のHot Space マナの開設、</li> </ul>

	<p>その他、福祉作業所等の運営も行っている。</p>
同行された委員の感想	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の様々な暮らしの困難に応え、それを事業化して活動が広がっている。非常に多岐にわたる事業間の連携が、今後の課題かつ急ぐべき課題のように思えた。また、スタッフを確保する難しさについて繰り返しお聞きしたが、どこの施設でも苦戦している課題になっている。青丘社では、利用者が青丘社との関わりの中で学びを深め、その後にスタッフとして支援する側に立つという事例も多く聞いているが、それでも困難な状況は続いている。「やりがい感」だけではなく、経済的な支えをはじめとした多面的なサポートの必要性を感じた。</li> <li>・いろいろと立派な活動や事業をされており、興味深い話を聞くことができた。</li> <li>・1階の綺麗なフロアから2階の教会、そして放課後に子ども達の支援を行っている環境は、地域に密着した形だと思う。併せて、韓国系の方々ができるだけ支援を受けられるよう、みんなで一生懸命考えながら事業を進めている点に非常に感銘を受けた。こうした活動は地域の輪をつなげるのに大事だと思っており、これをどういう形で継続するかがこれからの課題だと思う。</li> </ul> <p>青丘社の場合はいくつかの拠点があり、利益部門、不利益部門、ボランティアに近い部門が合わさっているので、合計して何とか成り立っているのではないかと思う。これがぎりぎりの状態にならないように、持っているつながりの中でどのように継続的な利益を生み出すかを少しずつ考えるようにしてもよいと思う。何でも区に支援してもらおうということではなく、自助として、「このネットワークを使って回すと利益になる」というのを自分達の中で考えることが、実はサステナブルなものにつながり、それが川崎区や区民の方々への貢献になるのではないかと思うし、その仕組みづくりを考えるステップに入っているのかなと感じた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・普段は介護の関係でいろいろとお付き合いしているが、それ以外にも多種多様な部門を展開されているところが非常に勉強になった。お話を聞いていて、地域性に合った事業を展開しているからこそ、その地域になくてはならない存在になっているという点を学ぶことができた。</li> </ul>

No.9

団体名	NPO法人ファンズアスリートクラブ
主な活動内容	総合型地域スポーツクラブとしての活動
会員数	272名、スタッフ25名
活動範囲	川崎区、幸区、宮前区、多摩区
主な運営資金	会員費
主な活動拠点	カルッツかわさき
団体の活動状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2008年市民団体として設立し、2013年にはNPO法人化してスポーツクラブを設立した。</li> <li>・活動内容は多世代、多種目、多目的をコンセプトにした総合型スポーツクラブの運営であり、スポーツの力を使った地域密着型の社会貢献事業である。</li> <li>・具体的な活動内容は、幼稚園では運動遊び、集めたボトルキャップでの手作りアート、小学校（旭町小学校、宮前小学校、渡田小学校）では出張授業、寺子屋授業、カルッツかわさき体操教室、一般向けにはカラーリング、ボッチャ教室、シニアの健康キャラバン、いこいの家での健康教室、障害者スポーツの普及、自転車の交通安全啓発、イベント運営、中学校給食のレシピ動画制作、残食防止の動画制作、川崎区・幸区・宮前区・多摩区のいこいの家や町内会会館で健康指導を行ったり、動画を制作している。</li> </ul>

#### 同行された委員の感想

- ・宮前区で立ち上った法人団体で設立から9年になり、近隣の大学の学生達と一緒に活動を行っているとのことであった。
- ・川崎区では地域の夏祭りは町内会が率先して行っているが、宮前区では新しく来た住民も多く、地域で開催しようという機運がなかなか高まらない。そこで、ファンズアスリートクラブに依頼して、学生達が盆踊りのやぐらを作ったり電気をつけたりなどの準備をしている。また、学生が浴衣を着て盆踊りを踊ることもあるとのことだった。地域住民のつながりがある地域に住む私からすると、団体にお金を支払って行事を行うことに対して驚きがあったが、高齢化が進んで次の担い手が見つからなければ、自分達の地域も同じようになるのかなと感じた。
- ・スポーツの国際大会などに参加している学生達が、休みやシーズンオフの空いた時間で地域の活動に参加したり、小学校などでスポーツを教えたりしており、総合型地域スポーツクラブという仕組みとのことであった。地域としてはいろいろな行事のお手伝いをしてもらい、学生達は大会や海外遠征に参加する際に地域の方から少し援助をしてもらうというように、お互いにWin-Winの関係を築ける仕組みだという話を聞いて、非常におもしろいと感じた。また、地域をうまく活かした形で多世代での交流を持たせているという点はとても参考になった。
- ・宮前区は近隣に大学が多い地域なのでこうした仕組みができていますが、川崎区は近くに大学がないので、どのように活動を展開していくか試行錯誤しているとのことであった。
- ・私の場合は高齢者と関わることが多いが、高齢者だけではなく地域の方と広く関わりを持つという部分では、ファンズアスリートクラブのような関わり方も1つの手段だと勉強になった。